

レスキューフーズ製品のご紹介

～阪神淡路大震災の教訓から生まれ、新潟県中越地震で体験し、
東日本大震災で活躍した
被災地で本当に必要とされる食事～

ホリカフーズ株式会社
執行役員営業部長 目黒智大
2023年2月10日

1. 自己紹介
2. レスキューフーズ製品の誕生
3. レスキューフーズ製品の特徴
4. 被災地での使用実例
5. 積雪寒冷地に求められる災害食の要件

1. 自己紹介 ～食べることをあきらめない～

いざ！という時のために、安心で高品質な災害食を製造しています

ホリカフーズでは、防衛省中央調達の非常用糧食を1963年に缶詰の製造からスタートさせ、現在に至るまで受注しています。現在では、主食の白飯のほか副食を製造し、**厳しい原材料検査、工程検査、完成検査を経て納品**を続け、自衛隊員の訓練や非常時の活動に役立っています。

また、介護食、治療食分野では、形態や成分を調整した食品を1971年から製造を開始し、高齢者の健康維持に不可欠な食品として全国の病院、高齢者施設で使用されてきました。

これらの非常用糧食、および介護食、治療食は突然の災害や緊急時でも、直ぐに喫食が必要であり、そのとき代替がきかない食品のため、高い安全性と信頼性が求められてきました。この分野での50年以上にわたる経験は、**開発と製造の各段階、および品質や保存の検査の仕組みに活かされ、更に高い品質と機能を目指しています。**

2. レスキューフーズ製品の誕生

(1) レスキューフーズ開発経緯

【災害現場（阪神淡路大震災・東日本大震災等）での食の状況と課題】

<状況>

- **ライフラインが使用できず、水やお湯を必要とする非常食を食べる事ができなかった。**
- 食品を温めることができず、冷たいものばかりで気力がでなかった。
- 備蓄していた非常食は普段食べ慣れている物ではなかった為抵抗があり食べ辛かった。

<課題>

- **ほとんど炭水化物ばかりで栄養が偏る。**
- 野菜不足で便秘、口内炎になる。
- 同じ物ばかりで飽きる。
- ストレスで精神不安定。

2. レスキューフーズ製品の誕生

(2) 災害時に必要な食事の条件

- **基本機能**；常温で一定期間の保存が可能
- **食事らしい献立**；**主食、副食の組み合わせ**があり、**継続して喫食できるメニューの種類**がある
- **携帯性**；温度環境・時間に影響されずに、**個食で容易に携帯**できる
- **栄養価**；**活動内容に応じたカロリー**がある
- **利便性**；**発熱剤で温めることができる**
- **食器**；包装容器が食器として使用できる
- **準備**；簡便性、箸・スプーンが付属している

2. レスキューフーズ製品の誕生

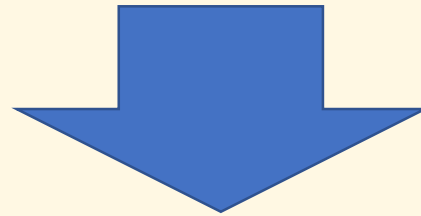
(3) レスキューフーズの誕生

防衛省向け戦闘糧食

- ホリカフーズでは1965年から**56年間に渡り戦闘糧食・非常用糧食を製造**している

災害時に必要な食事の条件

- 阪神淡路大震災後、災害現場に赴き「**災害時の食の課題**」を調査する



レスキューフーズの誕生

- 民間向けに「**災害時活動者**」の食事を開発することを目指す

3. レスキューフーズ製品の特徴

- 2003年発売。約20年間の被災現場での使用実績＋日本災害食認証は安全・安心の証です。
- 主食の「ご飯」と副食の「おかず」がセット**になり、食事らしく栄養面や食べやすさに配慮した豊富なメニューの種類があり、継続使用できます。
- 普段と同じおいしさ、種類が豊富で飽きずに食べることができ、訓練時の食事に活用してローリングストック化を図れます。
- 包装容器がそのまま食器になり、**発熱剤、スプーンなど食べるためには必要なものが同梱されたオールインワン型**で配布が容易です。
- 飲料水が不足しても薄味で食べやすい味付です。
- 調理済みで加圧加熱殺菌と包装容器の技術により衛生的で常温での長期保存が可能に、衛生的で保存料、着色料は不使用です。
- 夏の屋外でも安心して携帯でき、寒い冬でも**温かく喫食**できます。

4. 被災地での使用事例

(1) 2004年10月23日 新潟県中越地震による被害@ホリカフーズ



製造工場



倉庫

【被災地の実態から生まれた「白いごはん」】

- 同じ献立を食べ続けることは苦痛に感じ、とくに甘い菓子パンは食べ続けることができず、食べ慣れているご飯を望む声が多かった。この体験がその後の無菌包装米飯「**白いごはん**」の開発につながった。



4. 被災地での使用事例

(2) 被災地での主な使用事例

➤ 地震による被災地でのライフライン復旧・復興作業時の食事として

- ・ 2004年：新潟県中越地震 ・ 2007年：新潟県中越沖地震
- ・ **2011年：東日本大震災** ・ 2016年：熊本地震

➤ 台風・水害・土砂災害での復旧・復興作業・被災地支援の食事として

- ・ 2019年：台風15号、千葉県で発生した大規模停電の際、電力会社作業員の方々が使用。
- ・ 2021年：台風14号、佐賀県の浸水被害の被災者への食事として使用。

➤ パンデミック対策として使用

- ・ 2021年：新型コロナウイルスの在宅療養者の食事として自治体から配布。

5. 積雪寒冷地に求められる災害食の要件

- **温かい**食事
- 豪雪時の道路の渋滞を想定し**配布が容易**であるもの
- 主食だけでなく副食もあり、**食事らしく栄養面や食べやすさに配慮したメニュー**



火や水がなくても温かい
食事が摂れる
レスキューフーズ



発熱セット・食器も同梱した
オールインワン型災害食



2022年12月 国道17号線にて救援物資配布@ホリカフーズ

ご清聴誠にありがとうございました